

ダイコンの9月どり栽培に関する試験

第2報 播種期による根部肥大と品質

加賀屋 博行・田村 保男・藤本 順治・畠山 順三

(秋田県農業試験場)

Studies on the Cultivation of Radish for September Cropping

2. Root thickening growth and quality on different seeding dates

Hiroyuki KAGAYA, Yasuo TAMURA, Junji FUJIMOTO and Junzō HATAKEYAMA

(Akita Agricultural Experiment Station)

1 は し が き

北東北における露地野菜の生産は、夏の冷涼な気象条件を活かす作型の開発を中心に進められており、その安定生産技術の確立をはかることが重要となっている。

秋田県におけるダイコンの栽培は昭和56年度で作付面積1,630ha, 生産量56,900t, 出荷量27,300tで、本県野菜の中でも最も栽培面積が多く、産地は年々規模拡大がなされている。

ダイコンは比較的栽培労力を要せず、量産体制を整えやすく、大幅な作付面積の増加が見込まれ、時期的に供給過剰となることが予想されるため、今後の生産振興を進めるには、生産競合の少ない時期への収穫期の拡大が必要である。

そこで気象的な制約から暖地での生産が少なく、全国的に品薄となる夏場の生産に秋田県は有利な気象条件に恵まれており、この時期の生産技術の確立が強く望まれているので、本報では9月どりダイコンの播種期と根肥大、品質について昭和54～56年の3か年にわたって検討した結果を報告する。

2 試 験 方 法

(1) 供試品種 当場 夏みの早生1号(昭54), 夏みの早生3号(昭54～56), 早太り大蔵(昭54), 耐病総太り(昭55, 56) 現地 夏みの早生3号(昭55), 耐病総太り(昭55, 56)

(2) 試験区・播種期 当場 昭54: 8月3, 10, 17日 昭55: 8月4, 11日 昭56: 7月23, 28日, 8月3日 現地 昭55: 8月4日 昭56: 7月23日

(3) 耕種概要 栽植距離 当場70×30cm(4,761株/10a), 現地75×25cm(5,333株/10a, 昭55), 90×20cm(5,555株/10a, 昭56) 施肥量(kg/10a) 当場N20, P₂O₅23, K₂O20, 苦土石灰150, FTE4, 現地N20, P₂O₅13, K₂O16(昭55) N14, P₂O₅27, K₂O13(昭56), 両年とも苦

土石灰80, FTE4

(4) 供試土壌 当場 沖積堆積土 現地 仙北郡田沢湖町田沢, 標高250m, 黒ボク

3 試 験 結 果

品種により生育が異なり、耐病総太りの7月中旬～8月

表1 播種期と根重及びす入り状況

供試品種	試験場所	播種期 (月日)	生育日数 (日) (月日)		積算気温 (℃)	平均気温 (℃)	根重 (g/株)	す入り状況	試験年度
耐病総太り	当場	7.23	69	9.30	1477	21.4	780	未	56
		7.28	64	9.30	1362	21.3	486	未	56
		8. 3	58	9.30	1198	20.7	450	未	56
	現地	7.27	63	9.28	1242	19.7	780	未	56
		8. 4	57	9.30	1075	18.9	970	未	55
夏早生1号の	当場	8. 3	48	9.20	1094	22.8	433	始	54
		8. 3	56	9.28	1242	22.2	575	入	54
		8.10	55	10. 4	1170	21.3	683	始～入	54
		8.17	48	10. 4	1011	21.1	190	未	54
夏みの早生3号	当場	7.23	53	9.14	1197	22.6	459	微	56
		7.23	62	9.23	1357	21.9	834	始	56
		7.23	69	9.30	1477	21.4	840	始	56
		7.28	48	9.14	1083	22.6	190	未	56
		7.28	57	9.23	1242	21.8	741	始	56
		7.28	64	9.30	1362	21.3	750	始	56
		8. 3	48	9.20	1094	22.8	490	未	54
		8. 3	56	9.28	1242	22.2	884	始	54
		8. 3	51	9.23	1078	21.1	346	未	56
		8. 3	58	9.30	1198	20.7	580	未	56
		8. 4	51	9.24	1110	21.8	650	始	55
		8. 4	56	9.29	1185	21.2	733	入	55
		8.10	55	10. 4	1192	21.7	680	始	54
		8.17	48	10. 4	1011	21.1	145	未	54
	現地	8. 4	51	9.24	994	19.5	675	始	55
早太り大蔵	当場	8. 3	56	9.28	1242	22.2	393	未	54
		8.10	55	10. 4	1170	21.3	370	未	54

初旬播種は、平坦地（当時圃場）で3か年ともウイルス病の発生がみられ、根部の肥大が不十分なものが多かったが、収穫できたものは生育日数69日、積算気温1,477℃でもす入りがみられなかった。高冷地（現地圃場）の黒ボクでは生育が順調で、生育日数約60日、積算気温1,100～1,200℃が収穫適期の目安とみられた（表1）。

夏みの早生1号は8月3日播種で生育日数48日、積算気温1,094℃、根重433gです入りがみられ始め、その後のす入りの進行が著しかった。8月10日以降の播種では9月内に収穫期に達しなかった（表1）。

夏みの早生3号は平坦地の7月23日播種で生育日数53日、積算気温1,197℃です入りがわずかに認められ、生育日数62日、積算気温1,357℃、根重834gです入りが進んだ。7月28日播種は生育日数57日、積算気温1,243℃、根重740

gです入りがみられ始めた。8月3日播種は積算気温1,242℃ころからす入りがみられ始めた。8月10日以降の播種は9月内には収穫期に達しなかった（表1）。根重は7月中旬～8月上旬播種で生育日数45～50日、積算気温1,000～1,100℃から急激に増加し、生育日数55～57日、積算気温1,200～1,250℃以降の増加は少なく、この期間のす入りの進行は早期播種ほど早まった。7月中・下旬播種で根肥大・品質がピークに達する時期は、積算気温約1,200℃、生育日数57日頃にあるとみられ、ピークを過ぎると茎葉N、K₂O含有率が大きく低下した（図1, 2, 3, 4）。高冷地の黒ボクでは生育日数51日、積算気温約1,200℃が収穫適期の目安とみられた（表1）。

早太り大蔵はいずれの播種期でも根肥大が遅く9月末でも収穫期に達しなかった（表1）。

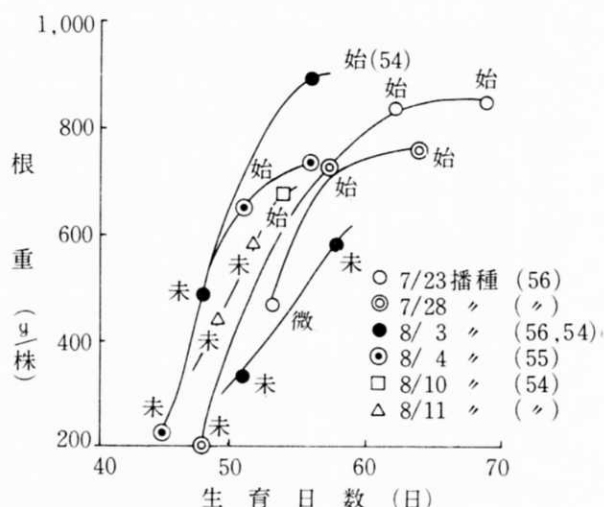


図1 生育日数と根重及びす入り
(夏みの早生3号)

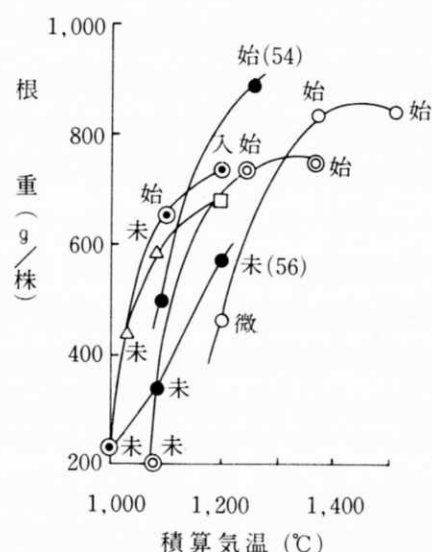


図2 積算気温と根重及びす入り
(夏みの早生3号)

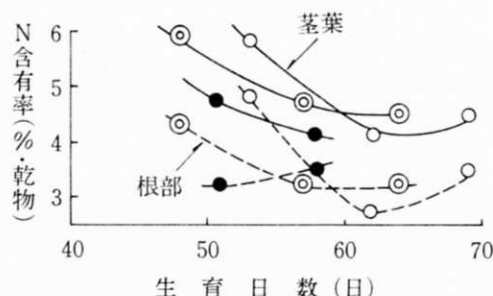


図3 生育日数とN吸収
(夏みの早生3号)

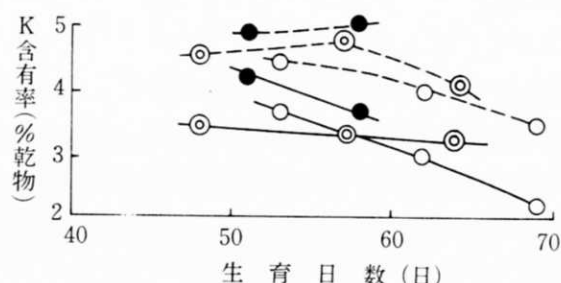


図4 生育日数とK吸収
(夏みの早生3号)

4 ま と め

気象的な制約から、暖地での生産の少ない9月どりダイコンの栽培法を確立するため、7月中旬～8月中旬での根肥大・品質について検討した結果、夏みの系は平坦地壌土では7月中旬～8月初期に播種すると、積算気温約1,200

℃、生育日数約57日で根肥大・品質が頂点に達し、9月中～下旬収穫となった。高冷地の黒ボクでは積算気温約1,100℃、生育日数約60日が収穫の目安とみられた。

耐病総太りはす入りがみられず、高冷地の黒ボクでは積算気温約1,100℃、生育日数約60日が収穫期の目安とみられた。